

氏 名	リン 林	トウ 東	リュウ 龍
学位(専攻分野)	博 士	(学 術)	
学 位 記 番 号	博 甲 第 80 号		
学位授与の日付	平成 7 年 3 月 24 日		
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当		
研 究 科・専 攻	工学科学研究科機能科学専攻		
学位論文題目	都市装置からみた広場的空間のアメニティ形成に関する基礎的研究 — 一人間行動と都市装置及び広場的空間との関わりを中心として—		
審 査 委 員	(主査) 教 授 材 野 博 司		
	教 授 池 田 有 隣	教 授 山 口 重 之	教 授 古 山 正 雄

論 文 内 容 の 要 旨

年々、都市化の進行に伴い、市街地空間の高密度化による弊害が増大する中で、災害時の避難広場や緩衝空間になるとともに、アメニティ空間として市街地空間における貴重な空地である広場的空間が再評価されつつある。特定街区制度や総合設計制度等を用いた市街地再開発事業等において、公開空地からアトリウムに至るまで各種の広場的空間が創出されており、空地の新規創出自身に既に価値があることも確かである。しかし、それが必ずしも魅力的なアメニティスペースの形成を目指しているとは言い難く、広場の空間構成や装置計画によって、よりアメニティのある広場的空間の形成が必要とされる。

そこで、本論文においては広場的空間をより豊かにすると推測される都市装置に着目し、広場的空間と装置との関係、およびそれと人間行動との関わりから、広場的空間における都市装置の役割およびそのあり方を明らかにしようとするものである。

本論文は序論(2章構成)、第一部・広場的空間における都市装置の利用実態(3章構成)、第二部・広場的空間における利用者の対応行動(4章構成)、結論の四部からなる。配置された装置とその周辺的环境空間とが極めて関連が深く、都市装置が周辺空間との密なる関わりにおいて存在していること、都市装置に関わる人間行動展開における可視性との関連が高いこと等多くの知見を得ている。

第一部では都市の街路空間における都市装置の分布状況から都市装置、特に管理系の装置が実質施設用途との関わりで、周辺空間と密度高く対応していること等を明らかにしている。

第二部では都市装置の選択行動軌跡を空間遷移度と選択行動パターンから類型化し、屋外広場では一般的都市装置との関わりが大であり、屋内広場では空間の構成との関わりが強いことを示すとともに(第六章)、都市装置への直接的対応および間接的対応が共に空間特性に規定されるが、間接的な対応行動が、直接的対応の最終目標とする都市装置に二重に規定されることを明らかにしている(第二章)。また、直接的対応装置選択後の注視行動および注視対象から、屋内外の空間特性により、その視覚対象および都市装置への対応行動において相違性が大であることを明らかにするなど幾つかの知見を得ている。

そして、これら研究結果から、都市の広場的空間における都市装置のあり方、都市装置を最大有効たらしめる広場的空間構成の方法、および、都市装置・広場的空間を一体的に構成する方法の手がかりについて提案している。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、近年、再認識されつつある広場的空間のアメニティ増大をもたらす構成要素としての可能性

を持つ、都市装置の広場的空間における位置づけおよび人間行動との関わりを検討し、都市空間のアメニティ形成のための手がかりを探ろうとするものであり、環境デザイン分野における時代的要請に合ったものであると認められる。

本研究の特色は、広場的空間のアメニティ形成のあり方を広場的空間と都市装置および人間行動との関連で把握している・広場的空間を内部空間と外部空間という相異なる空間を対象空間として取り上げ、その相違について比較検討している・広場的空間の価値を、多く利用された装置の抽出をベースに置きながら、人間の利用行動から装置と周辺空間構成要素との密度高い関わりから検討している・都市装置に対する間接的な対応行動と直接的な対応行動の両側面から検討している、の4点である。

本論文は、広場的空間のアメニティのための幾つかの有効な知見を得ており、都市空間のアメニティ環境形成および環境デザイン計画を進める上において、寄与するものと評価される。また、研究の展開方法も無理がなく、調査分析方法も適切と認められる。

最後に学位論文の基礎となった学術論文は日本都市計画学会の論文集1編、日本デザイン学会の研究論文集1編を初め、日本建築学会の数編の論文があり、博士の学位授与に値するものであると認められる。なお、課程修了による博士の学位授与に関する内規並びに同内規の運用方針を満たしていることを付記する。

以上により、審査委員会は本論文が学位授与に値すると判断した。